Publication: The Home Living
Country: Japan
Date/Issue: 15 May 2009

IFFS／AFS2009

シンガポールデザインをアジアから世界へ

〈5〉

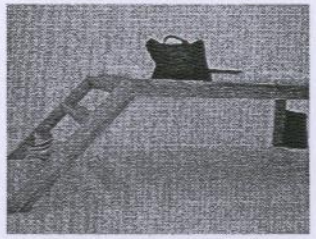
エアーディヴィジョン社

シンプルなたたずまい 記憶されるディテール

今回はair div ision（エアーディヴィジョン）社を紹介する。

同社は1999年に設立されたシンガポール企業。マレーシアに製造工場を持ち、本国以外に製品はヨーロッパへ輸出され、日本市場の開拓は今後の課題。「エアー」「ファンクション」「プランク」「ロイス」の4ブランドを展開。フランスのリーン・ロゼヘデザインを提供したこともある。2006年から4回目は、ホール6に2カ所のブースを設けてブランド「エアー」の新製品を紹介した。同ブランドのデザイナーは、ネイザン・ヨン氏とジェリー・ロウ氏の2人。シンプルなデザイン、ナチュラルトーンで統一されたカラーが様々な環境にたじむ。素材は特に木材が多用され、その他レザー、金属など。

展示エリア「プラットフォーム」一画での「エアーデザイングループ」（デザインユニット名）としての展示では、高さ70㎝のベッド、スライドランプ、高層マンションにインスパイアされたシェルフなどを展示。前述のベッドは、その名の通り高さ70㎝。脚部がユニークで、前方は通常の垂直な脚だが、後方が梯子のステップになっている。遊びの効いた実験的デザインでありながら、シンプルなたたずまい。



高さ70cmのベッド

ネイザン・ヨン氏

ロウ氏は、「非常にシンプルなMUJIプロダクトには、とても良い影響を受けている。これらの製品は、25歳前後のユーザーが自分の時間をより自由に過ごすシーンをイメージしてデザインしている」と語る。

別スペースの「エアーディヴィジョン」（社名）としての展示では、ソファ、ダイニングセット、テレビボード、シェルフなどが展示され、同展のベスト出展賞を「リビングルームカテゴリー」で受賞した。

ヨン氏はデザインについての自身の考えを「モダナイズ」という。直訳では現代化となるが、「素材を用いた機能性にまつわるすべてのアイデア。それには、素材の耐久性、応用技術、作用に対する変化の特性などの実際を熟知しなくてはいけない。機能的であれば、大切に何年も使える。装飾は最小限にして、ディテールにこだわる。木が切られ造られた製品の記憶をユーザーは知らないが、製品のディテールはユーザーの記憶の一部から、やがて人生の一部となり家具との関係が築かれる。そのために長持ちする家具を私たちは目指している」と語る。

（続く 小林）